

国際スポーツ大会等の誘致・開催状況について

1 主な国際スポーツ大会の誘致・開催状況

競技レベルの高い試合等を観戦することは、観戦者に夢や感動を与えるとともにスポーツへの関心や意欲を高める。また、まちの知名度やイメージアップのほか、集客力向上等に伴う経済効果を生み、シビックプライドの醸成やまちのにぎわいづくりに繋がるため、本市では各種国際スポーツ大会の誘致・開催にも力を入れている。

年度	誘致・開催状況（令和3年度以降）
令和3年度	◇2021 世界体操・新体操選手権北九州大会（10月）
令和4年度	◇ラグビー日本代表「リポビタンD チャレンジカップ 2022」 日本対ウルグアイ（6月） ◇ATTU 第31回東アジアホープス卓球大会（12月） ◇WDSF Breaking for Gold World Series in 北九州（2月）
令和5年度	◇サッカー女子日本代表国際親善試合 日本対アルゼンチン（9月） ◇マイナビ ツール・ド・九州 2023（10月） ◇北九州アーバンスポーツフェスティバル 2024（3月） ◇サッカーU-23 日本代表国際親善試合 日本対ウクライナ（3月）
令和6年度	◇ラグビー女子7人制 太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2024（4月） ◇バレーボールネーションズリーグ 2024 福岡大会（6月） ◇ラグビー女子15人制 太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIES 2024 日本代表対アメリカ代表（8月） ◇2024 体操ニッポン GALA in 北九州（9月） ◇マイナビ ツール・ド・九州 2024 小倉城クリテリウム（10月） ◇第2回 FIG パルクール世界選手権・北九州（11月） ◇第1回 FIG パルクールジュニア世界選手権・北九州（11月） ◇卓球 WTT 男女ファイナルズ福岡 2024（11月） ◇Breaking World Match 2025 日韓対抗戦（2月）
令和7年度	◇ラグビー男子15人制 リポビタンD チャレンジカップ 2025 日本代表対ウェールズ代表（7月） ◇ラグビー女子15人制 太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIES 2025 日本代表対スペイン代表（7月） ◇ラグビー女子7人制太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ 2025（7月） ◇ワールドスケートボードストリート 2025 北九州 - グランドファイナル -（11月） ◇NEXUS Presents 高円宮杯フェンシングワールドカップ 2025（12月）

「太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIES 2025」

ラグビー女子日本代表 vs スペイン代表

開催日時	令和 7 年 7 月 19 日(土) 18:00キックオフ
会 場	ミクニワールドスタジアム北九州
試合結果	日本代表 32 - 19 スペイン代表
観 客 数	2,401 人

【概要結果】

ラグビー女子 15 人制日本代表(サクラフィフティーン)が、女子スペイン代表(ラス・レオナス)と日本国内で試合を行う第 1 戦として、ミクニワールドスタジアム北九州にてテストマッチを開催した。8 月 22 日に開幕する「女子ラグビーワールドカップ 2025 イングランド大会」を控えた国内最後のテストマッチとなる注目の一戦。

【大会開催による効果】

- スポーツ振興
- 女子ラグビーの普及・拡大

【本市の取組み】

北九州市出身選手(長田いろは選手、吉村乙華選手、町田美陽選手)の市長表敬を実施、市内の商業施設、スポーツ施設、観光案内所等にチラシ・ポスター配布、小倉駅 JAM 広場大型バナーや小倉駅新幹線口ペDESTリアンデッキバナー掲出、小倉駅等のビジョン・サイネージで PR 映像放映、区役所や本庁舎に自立式パネル設置、SNS や市政だより、市 HP での情報発信、スペイン代表との市民交流(公開練習)や小倉駅 JAM 広場にて開催前イベントを実施した。



「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2025」 第 2 戦 北九州大会

開催日時	令和 7 年 7 月 20 日(日) 8:30キックオフ 令和 7 年 7 月 21 日(月・祝) 8:30キックオフ
会 場	ミクニワールドスタジアム北九州
主 催	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
参加チーム	12チーム
試合結果	優 勝:ながとブルーエンジェルス 準優勝:ナナイロプリズム福岡 第 3 位:PEARLS
入場者数	1,918 名(1日目:941 名、2日目:977 名)

【概要】

国内最高峰の女子セブンズのシリーズ戦で、2014 年より開催されている女子 7 人制ラグビーの大会。大会は 2 日間行われ、1 日目は予選プール、2 日目は決勝トーナメントを実施し、グランドファイナルである第4戦でシリーズのチャンピオンが決定される。

2025 年大会は、熊谷に始まり、北九州、花園、グランドファイナル札幌の全4戦を実施。第2戦である北九州大会では、地元・福岡のナナイロプリズム福岡を始めとする12チームが、ミクニワールドスタジアム北九州に集結した。

【大会開催による効果】

- スポーツ振興
- 女子ラグビーの普及・拡大

【本市の取組み】

市内スポーツ施設や商業施設、観光案内所などにポスター・チラシを配布、小倉駅新幹線口ペDESTロリアンデッキバナーや小倉駅 JAM 広場大型バナー掲出、小倉駅等のビジョン・サイネージで PR 映像放映、区役所や本庁舎に自立式パネル設置、SNS や市政だより市 HP での情報発信を行った。



ワールドスケートボードストリート 2025 北九州ーグランドファイナルー

開催日	令和7年11月23日(日)～30日(日)
会場	北九州メッセ（旧西日本総合展示場新館）
主催	ワールドスケート（WS） ワールドスケートボード 2025 北九州大会組織委員会
参加国・選手数	45 の国と地域・184 名
大会結果	【男子】 1位 白井 空良（日本） 2位 根附 海龍（日本） 3位 青木 勇貴斗（日本） 【女子】 1位 松本 雪聖（日本） 2位 織田 夢海（日本） 3位 クロエ・コベル（オーストラリア）
入場者数 ※学校観戦招待を除く	7,316 人 (28 日：2,635 人、29 日：1,929 人、30 日：2,752 人)

【概要】

「ワールドスケートボードストリート 2025 北九州ーグランドファイナルー」はワールドスケート（スケートボードの国際統括団体）が主催する、世界最高峰のスケートボードの国際大会であり、ロサンゼルスオリンピック出場を目指すトップ選手が出場する重要な大会。

今大会は、今シーズンのワールドスケートボードツアーの最終戦として、ローマ大会に続き開催され、ツアー全体の締めくくりとなる。

なお、国内では 2023 年の東京大会に続く 2 度目の開催となり、日本での開催自体が非常に貴重な機会である。

【大会開催による効果】

- 経済波及効果と賑わい創出
- 都市ブランドの向上
- アーバンスポーツの振興と定着



↑ 表彰式



← ↑ 競技写真

【大会における市のプロモーション】

- コース内ロゴ掲出
- コースサイドロゴ掲出
- ミックスゾーンロゴ掲出
- 会場内ビジョン
- 大会セレモニー
- 大会キービジュアル
- 大会公式ホームページ
- 大会公式プログラム



↑大会コース

【大会と連動した北九州市の取り組み】

「まちと大会が一つになる～若者が、まちと大会の“熱”に溶け込む～」をコンセプトとし、「エコフレンドリーの深化」「アーバンスポーツで稼げるまちへ」「戦略的なシティプロモーション」の三本柱で取り組みを展開。

1. エコフレンドリーな大会運営の深化

7つのエコフレンドリープロジェクト

- (1) 大会コース資源循環プロジェクト（競技コースは大会後に再活用）
- (2) 地域エネルギー活用プロジェクト（地元エネルギーで街を動かす）
- (3) 水素自動車電力供給プロジェクト（水素自動車からクリーンな電源供給）
- (4) グリーンアクセスプロジェクト（公共交通利用でCO₂削減）
- (5) 回収リサイクルプロジェクト（古着・小型家電の回収による循環型社会推進）
- (6) ミールクーポン DX 化（ミールクーポン DX でフードロス削減）
- (7) リフィルボトルプロジェクト（リフィルボトルを活用してペットボトル削減）

2. アーバンスポーツで稼げるまちへ

- (1) 小中学校、特別支援学校、大学生の観戦招待
大学生のボランティア参加
- (2) アーバンスポーツ 体験・体感イベント
- (3) 観光×スポーツ 来場者の経済効果最大化



↑体験イベントの一部（パルクール）

3. 戦略的なシティプロモーション

- (1) 街全体がスケートバイブスに染まる都市装飾等
- (2) メディアの巻き込み、SNS発信強化



↑小倉駅南口ペデストリアンデッキ（左）小倉駅南北通路壁面（中央）小倉駅 JAM 広場（右）の都市装飾

NEXUS Presents 高円宮杯フェンシングワールドカップ 2025

開催日	令和 7 年 12 月 5 日(金)～7 日(日)
会場	北九州メッセ(旧西日本総合展示場新館)
主催	公益社団法人日本フェンシング協会
参加国・人数	35 カ国・232 名
試合結果	【個人】 <small>さいしゅんげん</small> 1位 蔡俊彦(香港) 2位 キリル・ボロダチェフ(AIN(※)) 3位 ジュリオ・ロンバルディ(イタリア) マシアラス・アレクサンダー(アメリカ合衆国) 【団体】 1位 イタリア 2位 フランス 3位 日本
入場者数	3,080 人(選手・関係者含む) (1 日目:930 人/2 日目:1,050 人/3 日目:1,100 人)

※AIN(Athelete Individuel Neutre):ロシアから個人資格で参加した選手団

【概要】

国際フェンシング連盟(FIE)が公認する国際大会の一つ。1年に5大会開催されるワールドカップ(カテゴリーA)のうち、日本で毎年「高円宮杯」として開催している。日本で開催される「高円宮杯」では、男子フルーレの個人戦と団体戦(国別)が行われ、ワールドカップでありながら、観戦無料であった。

「高円宮杯」は今まで関東圏で開催されていたが、フェンシングを競技としてもっと幅広く普及していくため、開催地域を広げることとなり、国際大会を数多く開催している北九州市が会場に選ばれた。

【大会開催による効果】

- スポーツ振興
- フェンシングの普及・拡大



【本市の取組み】

市内スポーツ施設や商業施設、観光案内所などにポスター・チラシを配布、小倉駅新幹線口ペDESTリアンデッキバナー掲出、小倉駅等のビジョン・サイネージで PR 映像放映、区役所や本庁舎に自立式パネル設置、SNS や市政だより市 HP での情報発信を行った。

